

おしえて!

感染症 さがみはら

2026年3月



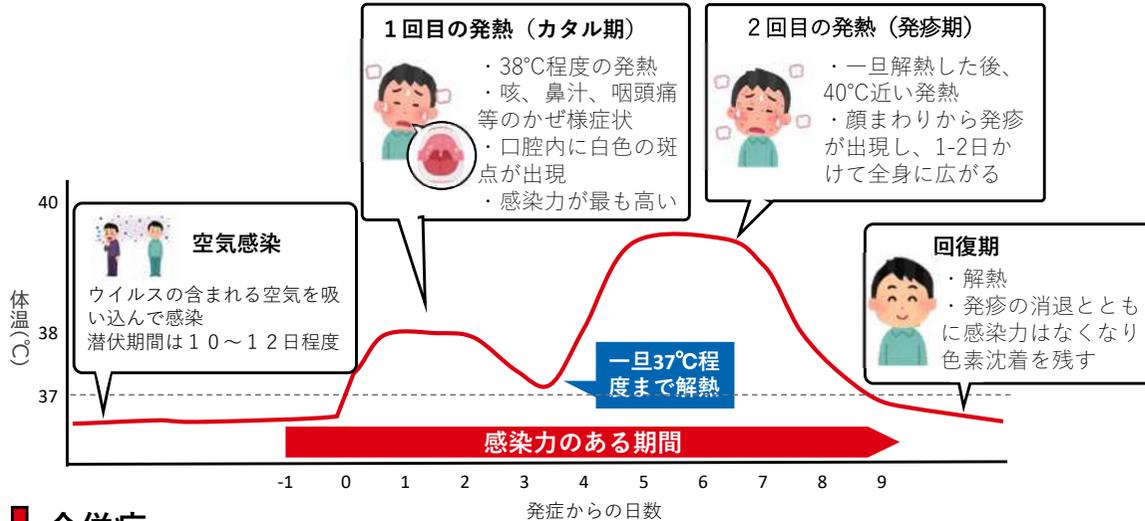
今月の注目疾患：麻しん(はしか)

麻しんは、麻しんウイルスによって引き起こされる急性の全身感染症です。感染力が非常に強く、免疫を持っていない人が感染すると、ほぼ100%発症し、一度感染して発症すると一生免疫が持続すると言われています。

2023年以降は、国外における麻しん流行に伴い、国内でも海外からの麻しん輸入症例が増加している一方で、海外渡航歴のない麻しん症例も報告されています。

一般的な経過

- ・かぜ様症状、発熱、発疹が代表的な症状です。
- ・発症の1日前から発疹消退までは感染力があり、他人にうつす可能性があります。

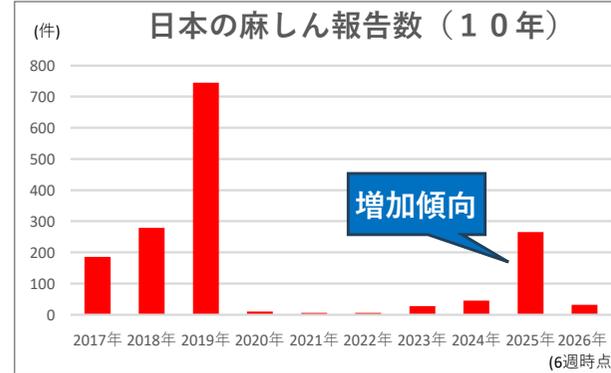


合併症

全身の免疫力が低下するため、重篤な合併症を発症しやすくなります。



麻しん感染後、数年の潜伏期間ののち発症する極めて重症の脳炎で、治療がなく予後不良の疾患です。麻しん患者の10万人に1人の割合で発症するといわれています。



麻しん報告数上位10の国々

国名	報告数
インドネシア	14,406
イエメン	9,277
モンゴル	8,483
パキスタン	8,310
インド	8,184
アンゴラ	5,823
ナイジェリア	4,676
メキシコ	3,164
ロシア連邦	2,939
ラオス人民民主共和国	2,859

WHO(世界保健機関)麻しん報告数(2025年6月~2025年11月)

予防のために

麻しんはマスク、手洗いのみでは**防ぐことができません!**
2回のワクチン接種が最も有効な予防方法です。

↳ 2回のワクチン接種により、**97~99%程度**の人が麻疹ウイルスに対する免疫を獲得することができます。1回の接種だと十分な免疫が獲得できないことがあります。

2回の定期接種を逃さないようにしましょう

・1回目:1歳の1年間
・2回目:小学校入学前の1年間

定期接種対象外の方で、次のような場合はワクチンの接種を検討しましょう

麻しんにかかったことがなくワクチンを1回も受けたことのない方

麻しんにかかったことがなく2回の接種記録が確認できない

海外渡航の予定がある方

医療・教育関係者

接種についてはかかりつけの医師にご相談ください

※妊娠中の方は接種できません

※麻しんを疑う症状が現れた場合は、必ず**事前に医療機関に電話連絡してから受診**してください。

○保健所医師のコメント

麻しんワクチンは極めて有効で、2回接種により多くの方が十分な免疫を獲得します。ただし、個人差により抗体が十分につかない場合があります。接種歴が不明な方や、流行地域への渡航予定がある方では、年齢に関わらず追加接種が検討されることがあります。接種については医療機関にご相談ください。

電子版(PDF)は感染症情報センターHPに掲載中! →



★相模原市感染症情報センターでは毎週感染症に関する情報を掲載しています

相模原市 感染症情報センター

発行 相模原市衛生研究所